

## ブロンズ至上主義

申圭恒 伊藤一洋 黒川弘毅

2019年12月6日(金) - 12月27日(金)

オープニングレセプション 12月6日(金) 19:00-21:00



(左から) 黒川弘毅「Spartoi No.34」H23.5xW33xD30cm Bronze 1994、申圭恒「Deer #9-1」H39xW35xD27cm Bronze 2015、伊藤一洋「天體 No.24」H18×W13×D33cm Bronze 2016

hpgrp GALLERY TOKYO より、申圭恒（シンギュハン）、伊藤一洋、黒川弘毅による三人展「ブロンズ至上主義」の開催をご案内申し上げます。作家を迎えてのオープニングレセプションは12月6日（金）19:00 から開催いたします。この機会にどうぞ高覧くださいませ。

展覧会のタイトルが示す通り、3人の彫刻家はブロンズに勝る媒体は存在しないという立場を貫いている。彫刻という表現から決して外れることがないので、「ブロンズ彫刻至上主義」と言っても良いかもしれない。諸行無常の内にはかない永遠という時間への憧憬  
想像しかできない、もしくは想像さえできないほどの彼方  
表象ではなく、存在（量やかたまり）とは何かという問い  
芸術という覚悟が宿る彫刻展が始まります。

hpgrp GALLERY  
ディレクター 戸塚憲太郎

## [ステイトメント]

ブロンズというメディウムは、作家たちには選ばれる材料ではなく、ブロンズに作家たちが選ばれる。ここで言うメディウムとしての選択は、条件ではなく、自分のあらゆる性向を虚飾と偽善なく、率直に全面的にすべて丸ごと受け入れる行為であり、いかなる論理が挟まれてもならず、条件も必要ない。ブロンズで鑄造されて生まれる作品を期待し、粘土を弄り、ワックスをつけ、削り取る。石膏の鑄型を作りながら、窯に焼いてブロンズを溶かしながら。私の手を離れ、重力によって地面に吸い込まれる白い溶湯は、私の認識の外で世界を変える。この変化は必然的に偶発的で、専制的に自由である。それは、この瞬間が超越性を持つためである。世界の変化を可能にするこの瞬間は、決してどの観念でも捉えることができず、現在、過去、未来のどこでも見当たらないものとして何度も現れ、その中から諸々の世界の全て="作品" が生まれる。

全ての変化は永遠性を伴って現れ、この瞬間は時を越えた超越性="美しさ"を帯びる。ブロンズが何故美しいのかについて、3人の作品が断言するだろう。

- 申圭恒

## 申圭恒 (シンギュハン)

1991年、ソウル生まれ。武蔵野美術大学博士課程3年在中。

府中市美術館、佐野市文化会館、世宗美術館、国立新美術館、ソウル市立美術館、東京都美術館などでグループ展開催。

創造展、ソウル美術大展、二科展、佐野ルネッサンス鑄金展、権鎮圭賞などを受賞。

## 伊藤 一洋

1972年、福岡県生まれ。武蔵野美大工芸工業デザイン学科卒。

hpgrp GALLERY TOKYO、AURA GALLERY (北京)、なびす画廊、ギャラリー東京ユマニテ、ラディウム レントゲンヴェルケなどで個展・グループ展開催。

## 黒川 弘毅

1952年、東京都生まれ。東京造形大学卒業。

ときわ画廊、東京画廊、なびす画廊、コバヤシ画廊、hpgrp GALLERY TOKYO、府中市美術館、宇都宮美術館、

川崎IBM 市民ギャラリーなどで個展多数。

東京国立近代美術館、セゾン美術館、滋賀県立近代美術館、横浜市民ギャラリー等でグループ展多数。

hpgrp GALLERY TOKYO (エイチピージーアールピー ギャラリートウキョウ)

〒107-0062 東京都港区南青山5-7-17 小原流会館 B1F

03-3797-1507

art@hpgrp.com

<http://hpgrpgallery.com>

営業時間 12時～20時

日曜・月曜 休廊

